

当館所蔵のドイツ林学書と林業関係教科書の紹介

— 解説とリスト —

資料館スタッフ 山口 登

1. ドイツ林学書(原書)

木曾山林学校は、明治34年(1901)に創立した全国で初の林業科設置校であったことから、数学、博物などの一般科目の教科書は、中学校のものを使用しましたが、林業関係の教科書は何もありませんでした。

林業関係の教科書は、最初に発行された明治40年(1907)の『林学通論』(本多静六著)でしたから、開校から6年もの間、先生方は教科書なしで苦労されたものと思います。

先生方はご自身が大学で勉強されたときのドイツ林学書とノートをもとに授業を進めたようです。当館には先生方が置いていかれたドイツ林学書が28冊残っていました。一部は大正時代に先生方の要望によって東京・日本橋の丸善から取り寄せたものもあります。

ドイツ林学書(原書)のリストは原書のタイトルと著者名を翻訳したもので、当時の林学の専門用語で現在は使われていないものもあり苦労しました。誤訳もあるかも知れませんが、ご指摘いただければ幸いです。

2. 林業関係教科書(明治～昭和23年)

木曾山林学校時代に使用した実業学校の林業教科書等46冊を登録台帳より抜粋し、初版発行年順にリストを作成しました。この中には、農業の教科書や礼儀作法の教科書等も含まれています。

林業関係の教科書は、ほとんどが本多静六博士の手になるものです。明治大正時代の「林学教科書」シリーズ、昭和に入ってから「本多農林教科書」シリーズが林業教科書のすべてと言ってよいと思います。

大学の先生が中等レベルの実業教育の発展にご尽力いただいた功績は大であります。



ドイツ林学書



林業関係教科書